

Q 8 困難を抱える児童生徒への「気付きと理解」のために必要なことは何か。

A： 児童生徒一人一人に適切な教育的支援を行うためには、まず担任が、児童生徒の出している様々なサインに対して「変だな?」「どうしてかな?」と気付くことが重要である。そして、何かに気付いたら、次に「いつ」「どこで」「どのような時」「どんな問題が起こるのか」を観察し、問題となっているつまずきや困難などの様子を正確に把握することが大切である。児童生徒の出しているサインの中には「これはサインなのかな?」と思うような場合もあるが、それを見逃してしまったために適切な対応が遅れてしまい、場合によっては問題行動等につながることもある。担任として児童生徒の出すサインに気付く感性をもつことが必要になる。

1 学級担任や教科担任による気付きと理解の例

担任の気付き	担任の理解と手立ての例
児童生徒の困っている状況からの気付きと理解の例	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板の文字を写すときになると手が止まってしまうのはなぜかな? ・ 書くのにほかの子より必要以上に時間がかかるのはなぜだろう? 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視力に問題はないかな。座席を前にして大きな文字で板書してみよう。 ・ 書く量や時間を調整し、字形については大目に見ることにしよう。
指導上の困難からの気付きと理解の例	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中10分位すると立ち歩き始まってしまう。注意すれば座るが、すぐまた離席してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容や今取り組むことが分からないのかな。15分の取組を目標にした内容や量にしてみよう。
保護者からの情報による気付きと理解の例	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 翌日の学習用具の準備が一人でできない。とりあえずかばんの中に様々なものを詰め込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で机の周りが散乱している原因の一つだな。 ・ 家庭に持ち物準備表をもたせて、保護者に準備を協力してもらおう。

2 発達障害への気付きとその特徴

次に示すものは、LD、ADHD、高機能自閉症に見られる特徴的な事象の例である。子どもを正しく理解するために該当項目の有無を確認することは大切であるが、いくつかの項目が該当するからといって、安易に障害名と結びつけたりすることのないよう十分注意する必要がある。校内委員会や専門家と相談、確認しながら適切な対応策を見出すことが重要になる。

(1) 学校生活の様々な場面での気付きの例

知的発達の状況

- ・ 知的発達の遅れは認められず、全体的には極端に学力が低いことはない。

国語、算数・数学における気付き

- ・ 指示の理解が難しい。
- ・ 適切な速さで話すことが難しい(たどたどしく話す。とても早口である)。
- ・ 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする。
- ・ 初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。
- ・ 文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする。
- ・ 読みにくい字を書く(字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない)。
- ・ 独特の筆順で書く。
- ・ 計算をするのにとっても時間がかかる。
- ・ 学年相応の文章題を解くのが難しい。
- ・ 学年相応の図形を描くことが難しい(図形の模写。見取り図や展開図の作成)。
- ・ 事物の因果関係を理解することが難しい。

そのほかの教科指導における気付き

- ・ 本人の興味のある教科には熱心に参加するが、そうでない教科では退屈そうにみえる。
- ・ 本人の興味ある特定分野の知識は大人顔負けのものがある。
- ・ 自分の考えや気持ちを、発表や作文で表現することが苦手である。
- ・ 教師の話や指示を聞いていないようにみえる。
- ・ こだわると本人が納得するまで時間をかけて作業等をすることがある。
- ・ 学習のルールやその場面だけの約束ごとを理解できない。
- ・ 一つのことに興味があると、他のことが目に入らないようにみえる。
- ・ 場面や状況に関係ない発言をする。
- ・ 質問の意図とずれている発表(発言)がある。
- ・ 不注意による間違いをする。
- ・ 必要な物をよくなくす。

行動上の気付き

- ・ 学級の児童生徒全体への一斉の指示だけでは行動に移せないことがある。

- ・離席がある、椅子をガタガタさせる等、落ち着きがないように見える。
- ・順番を待つのが難しい。
- ・授業中に友達の邪魔をすることがある。
- ・他の児童生徒の発言や教師の話を遮るような発言がある。
- ・体育や図画工作・美術等に関する技能が苦手である。
- ・ルールのある競技やゲームは苦手のように見える。
- ・集団活動やグループでの学習を逸脱することがある。
- ・本人のこだわりのために、他の児童生徒の言動を許せないことがある。
- ・係活動や当番活動は教師や友達に促されてから行うことが多い。
- ・自分の持ち物等の整理整頓が難しく、机の周辺が散らかっている。
- ・準備や後片付けに時間がかかり手際が悪い。
- ・時間内で行動したり適切に時間を配分したりできない。
- ・掃除の仕方、衣服の選択や着脱などの基本的な日常生活の技能を習得していない。

コミュニケーションや言葉遣いにおける気付き

- ・会話が一方通行であったり、応答にならないことが多い。
(自分から質問をしても、相手の回答を待たずに次の話題に行くことがある。)
- ・丁寧すぎる言葉遣い(場に合わない、友達どうしても丁寧すぎる話し方)をする。
- ・周囲に理解できないような言葉の使い方をする。
- ・話し方に抑揚がなく、感情が伝わらないような話し方をする。
- ・場面や相手の感情、状況を理解しないで話すことがある。
- ・共感する動作(「うなづく」「身振り」「微笑む」等のジェスチャー)が少ない。
- ・人に含みのある言葉や嫌味を言われても、気付かないことがある。
- ・場や状況に関係なく、周囲の人が困惑するようなことを言うことがある。
- ・誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出すことや独り言が多い。

対人関係における気付き

- ・友達より教師(大人)と関係をとることを好む。
- ・友達との関係の作り方が下手である。
- ・一人で遊ぶことや自分の興味で行動することがあるため、休み時間一緒に遊ぶ友達がいないように見える。
- ・口ゲンカ等、友達とのトラブルが多い。
- ・邪魔をする、相手をけなす等、友達から嫌われてしまうようなことをする。
- ・自分の知識をひけらかすような言動がある。
- ・自分が非難されると過剰に反応する。
- ・いじめを受けやすい。

(2) 発達障害の特徴

LDの特徴

- ・一生懸命本を読むが、同じ行を読んだりとばしたりする。
- ・筆算の桁がずれやすい。
- ・おしゃべりだが、よく話しがとんだりずれたりする。
- ・文字を書くのが苦手で、鏡文字がなかなか直らない。
- ・他の子に比べてすごく不器用で、運動すると体の動きが何だかぎこちない。
- ・ぼんやりすることが多い。
- ・1対1で話すとよく分かるのに、集団の中ではどうも理解が悪く、一人指示と違う行動をとってしまう。
- ・いろいろなことをよく知っているのに、数の理解が進まない。
- ・たずねられたことに対して、答えがずれていたり、関係のないことを言ったりする。
- ・自閉症ではないと思うが、こだわりがあったり、興味の偏りがあったりする。
- ・とにかく落ち着きがない。

ADHDの特徴

- ・落ち着きがなく、すぐに席を離れてしまう。
- ・整理整頓が苦手で、いつも机の周りが乱雑である。
- ・教師の話を見聞かず、突然答えを言う。
- ・授業中ぼんやりして、空想にふけっているように見える。
- ・宿題をやらない。宿題の存在を忘れてしまう。
- ・おしゃべりが止まらない。
- ・周囲の刺激にすぐ反応し、注意が散漫になる。
- ・かっとなりやすく、反省心が薄い。
- ・手遊びが多く、集中できない。
- ・とにかく忘れ物が多い。
- ・課題を計画しても仕上げることができない。

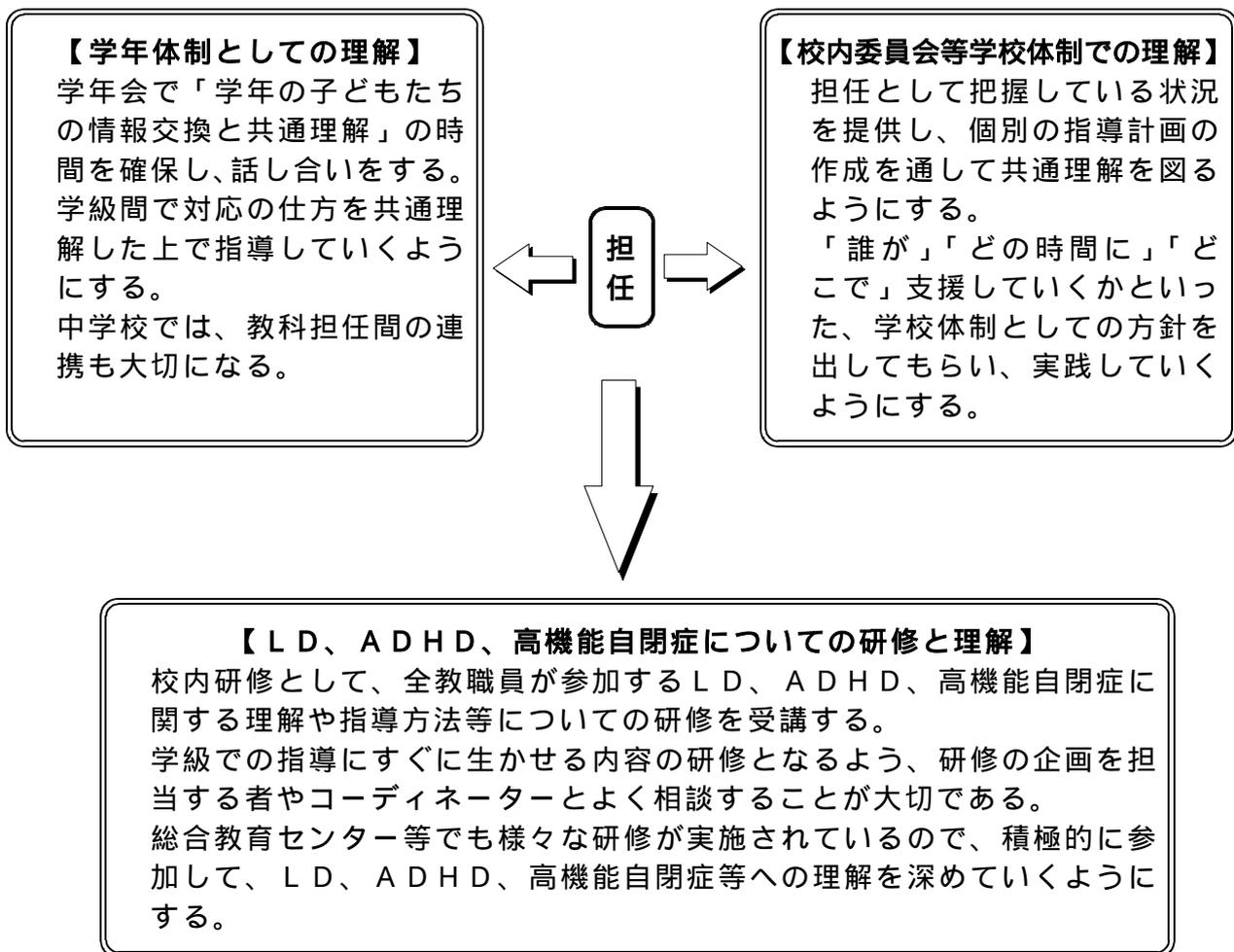
高機能自閉症・アスペルガー症候群の特徴

- ・言葉のとらえ方が変で、すぐに誤解する。
- ・妙に理屈っぽい。
- ・相手の感情を害する発言が多い。
- ・軽く触れられたただけなのに、友だちをたたいたりする。
- ・大きな音を嫌がる。
- ・身体に動きが不自由である。
- ・場面に不相応な行動をしたり、周りが楽しんでいるのに無関心でいたりする。
- ・図工など、熱中するといつまでもやっている。
- ・特定のことに物知りである。(「鉄道博士」「漢字博士」等)
- ・やりたくない課題はやらない。
- ・やりたいことを阻止されたとき、かんしゃく(パニック)を起こす。

4 学校体制としての気付きと理解

児童生徒のつまずきや困難の状況やその原因の理解、指導方針等が果たして正しいかどうか、不安になることもある。特に、原因の理解については、正しくとらえないと、その後の指導も間違った方向で進めてしまう場合もある。学年会や校内委員会は、担任のそうした不安を取り除く場となるので、大いに活用したいものである。そのためには、担任が率直に悩みを話せる雰囲気のある学校であることが何よりも大切と言える。

- (1) 学校では、校内委員会を設置し、同委員会において、担任等の気付きや該当児童生徒に見られる様々な活動の実態を整理し、個別の指導計画を作成していく。
- (2) また、学年会においては、児童生徒の細かな情報交換と共通理解の時間を十分確保し、同一歩調で指導・支援できるようにする。同様に中学校においては教科担任間の連携も重要になる。
- (3) 保護者にも十分説明しながら協力を求め、指導の充実を図る。
- (4) 校内研修会等において、LD等の理解や指導について研修し、コーディネーターとの連携により指導の在り方や校内体制の改善を図る。



参考資料

「特別な教育的支援を必要としている子どもたちのための校内支援ハンドブック Ver.1」
H16.3 山梨県教育委員会